

〈資料紹介〉

情報の宝庫、二つの田辺元文庫

この稿では田辺哲学についての情報の宝庫とも言うべき群馬大学、京都大学、二つの田辺元文庫と、それらが田辺研究について持つ意義について解説したい。

田辺は昭和一九年に定年退官した後、夏の山荘であった群馬県北軽井沢大学村の山荘に引きこもったが、昭和三三年に脳軟化症（脳梗塞）を起こして前橋の群馬大学附属病院に入院した。田辺には子供がなく夫人も死去していたため、その遺産のほとんどは田辺の希望で群馬大学に寄贈された。これには膨大な蔵書、一〇〇冊以上の手帳型の日記、数多くの手稿が含まれていた。田辺の死後、群馬大学と大島康正などの田辺の弟子たちとのあいだで協議がもたれ、蔵書の内、京都大学文学部図書館にない書籍は同図書館に、それ以外は日記、手稿類も含め、すべて群馬大学に寄贈されることとなった。

この様な経緯で、現在、二つの田辺元文庫が存在する。

一つは群馬大学総合メディア情報センター図書館本館の田辺元文庫であり、もう一つは京都大学文学研究科図書館の田辺元文庫である。これら二つの文庫は、田辺研究者にとっては「情報の宝庫」と形容すべきもののだが、残念ながら、田辺没後五〇年の現在まで、十分に研究資料として使われてきたとは言い難い。その主な理由は田辺の崩し字があまりに難読であるためだろう。昭和三八年に刊行が開始された『田辺全集』〔筑摩書房〕の広告を見ると日記、手稿の類まですべて出版するとある。しかし、それは殆ど実現できなかったわけで、弟子達にも田辺の筆跡が読みづらかったことが推測される。

では、二つの田辺元文庫の史料は解明不可能かというところはそうではない。私と共同研究者たち（こし）は、私の研究室で開発した史料研究用ソフトウェア「SMART-GS」を使って、田辺の手書き文書を解読する試みを続けており、

林 晋

dieser Wahlen abhängen, a_1 wieder von den ersten a_2 usw. Hier die allgemeinste Möglichkeit anzugeben, bildet ein schwieriges Problem, analog dem von BROUWER in [11] behandelten.

Es ist nun klar, daß die Wahlfolge nicht den einzelnen mathematischen Gegenstand, sondern die Gesamtheit, die Menge, zu ersetzen bestimmt ist. Während die einzelne reelle Zahl durch eine gesetzmäßige Folge gegeben wird, ist das Kontinuum durch die Wahlfolge, deren Freiheit nur durch die Konvergenzbedingung eingeschränkt wird, vermittelt.

Nach der Einführung der Wahlfolgen kann in der Logik der Ausdruck „für alle x “ nicht mehr mit „für jedes einzelne x “ identifiziert werden; für Wahlfolgen muß er die oben angedeutete Bedeutung erhalten. Die formale Logik wird durch diese Umdeutung nicht be-

図1 種の論理と数理(A・ヘイティンフの著書(1934(昭和9)年刊)への書き込み)

既に幾つかの文書の解説に成功し、「種の論理」について、今まで知られていなかった事実を幾つか発見している。たとえば、本特集に寄稿した私の論文で紹介した種の論理が数理哲学に結びついた時を記録したものと思われるヘイティンフの著書への書き込みは、その一例である。その部分を図1に示す。翻刻は次のようになる(翻刻は筆者による(2))。

種 個

内包的意味ヲ外延的意味カラ独立セシム。

実数ハ連続ノ Intervallenfolge ノ 交錯トナラン。種々ノ

異ル Wahlfolge ヲ 同一ノ

実数ニ対シ 想定シ得。一ノ Folge ノ Glied ガ 他ノ Folge

ニ 於テ 分割セラレ得。

一ノ 系列ニ ソレヲ 否定スル 系列ガ 附随ス

田辺の筆跡は変動が大きく、同じ文字が同じテキスト中で大きく違う書き方をされている場合も、逆に違う文字がほぼ同じに書かれている場合も珍しくない。そのため、確定的な翻刻を行なうことは難しい。この翻刻でも「他ノ Folgeニ於テ分割セラレ得」の「於テ」は他史料のそれと比較してこの様に翻刻したが、蓋然性は低いものの「支ヲ」と読めないこともない。

田辺史料の内、我々が現在最も注目しているのが、種の論理が成立した昭和九年の特殊講義「認識の形而上学」の推敲メモである。この史料は原稿用紙五三枚からなるが、不完全ながら一割程度の翻刻に成功している。

その翻刻結果と同時期の日記の分析により、「社会存在の論理」の冒頭に種の論理の原型として現れるレヴィイブルリユールの「分有」の概念に、田辺が、この特殊講義のテーマの一つであるマックス・シェーラーの知識社会学の

「参加 (Teilhaben)」の概念からたどり着いたらしいことが判明している。種の論理の直前に、田辺は、ハイデガーとシェラーを対比し、同じ生の哲学の傾向を持ちながらも、前者では「生」、後者では「学」の立場が強いとする議論を行なっている。また、講義推敲メモには、ハイデガー、シェラーの政治への姿勢について批判した箇所がある。これらのことは、種の論理成立への、ハイデガー、シェラーの哲学の強い直接的影響を示している。

また、シェラーやハルトマンの認識論を論じる文脈の中で、かなり唐突な仕方、「余ノ種個全ハ政治的トナル。種ハ Faschism, 個ハ Liberalism. Bourgeois Demokratie, 全ハ Sozialdemokratie ナリ 併シ Diktatur ハ 排ス故ニ Kommunism ハ 階級的種ノ立場ナリ」という文が現れることが発見されている(図2、3)。翻刻は田辺元史料研究会)。前後との関連が薄いメモなので、政治・社会哲学としての種の論理の成立のその時に書かれたメモである可能性が高いと思われる。

田辺の手書き史料は、癖のあるしかも不安定な崩し字のために難読であるが、先に述べたソフトウェア「SMART-GS」を用いる翻刻技法により、この難読性が打破されつつあるのである。特に、史料の画像をスクリーンに投影し、複数の者が、同時に同じ史料を見ながら議論しつつ翻刻作業(特に翻刻の修正作業を進める協同翻刻の技法③を用いると、従来の文献史料学では想像できなかったほどのスビ

ードと精度で翻刻が可能となる。また、すでにある程度の翻刻が蓄積されたため、それとの比較を用いることで、哲学を知らない学部学生でも、昭和九年の特殊講義メモの70%程度を独りで翻刻できることがわかっている。学生によると、内容がわからなくてもパズルを解くように解読できて面白い、とのことである。

これらの研究は、科研費挑戦的萌芽研究 第二二六五三〇〇八(東洋・日本思想史)、「西田哲学・田邊哲学のテキス

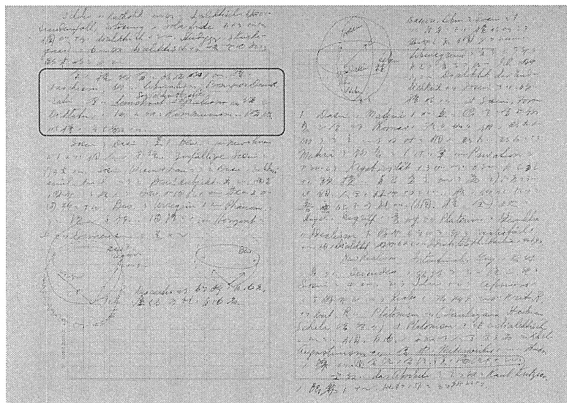


図2 種の論理の誕生か?(昭和9年特殊講義推敲メモから)

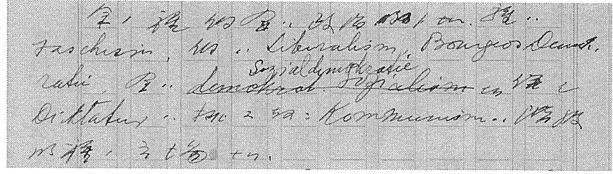


図3 図2の枠部分を拡大

ト生成研究」の補助により、群馬大学田辺元文庫史料の高精度カラーデジタル画像を作成して行なわれている。この科研費研究、および、それ以前の研究において作成した群馬大・京大両田辺元文庫の史料画像は、我々が作成した翻刻とともに田辺研究者に京都学派アーカイブ <http://kyoto-gakuhainfo> を通して公開している(4)。また、その翻刻や画像を読む為に必要な「SMARTGS」は <http://sourceforge.jp/projects/smartgs> で公開されており、簡単にダウンロードしてWindows、Mac OS X、Linux 上で史料・翻刻を閲覧することができる。我々は、田辺元

らのサービスが役立つことを願ってアーカイブとソフトウェアの開発を続けているので、研究者諸子は是非活用していただきたい。

を頂いた。改めて感謝したい。

(3) 「SMARTGS」による協同翻刻の技法は、日本政治史の重要史料である倉富勇三郎日記翻刻プロジェクトのために、京大現代史学講座によって考案された。

(4) このアーカイブでは京大文学研究科図書館所蔵の西田幾多郎の手書き原稿すべての画像も公開している。こちらは田辺史料と異なり、研究者でない人たちにも公開されており、誰でもダウンロードして史料を閲覧することができ。現在、試験公開中であり、二〇一二年一月中旬に公式公開の予定である。

(1) 私の特殊講義「田辺元を読む」の参加者などからなる田辺元史料研究会。

(2) 翻刻に際して京大現代史学教室の永井和教授にご協力